

学科としての教員養成の目標、計画、教育の質向上の取り組み

生命工学部 海洋生物科学科 (中一種免(理科)・高一種免(理科)・高一種免(水産))

① 教員養成の目標

当学科の教育目標は、海洋の生物と環境について深く学び、得られた知識を活用して、海の環境を損なうことなく、海洋の生物資源を有効かつ持続的に利用する方法を明らかにすることである。そこで、その様な専門知識に裏打ちされた人格とチャレンジ精神を持ち、常に未来を志向する実践的かつ発展的な授業を構成できる素養を身につけた教員の養成を目標としている。

② 教員養成の計画

中学校理科教育は、生物学、化学、地学、物理学の総合教育であり、幅広い理系の知識の習得が求められている。当学科では、海洋生物学ならびに海洋学の視点から理系分野を俯瞰できる中学理科教員の養成を目指している。また、3年次からは資源利用育成、フィールド生態環境、アクアリウム科学、水産食品科学の4つのコース制を導入して専門教育を重点的に行っている。それらを履修することにより、海洋の生物と環境についての基礎から応用までの幅広い、かつ深い理解に基づいた高校理科教員ならびに高校水産教員の養成を目指している。

③ 教員養成教育の質向上の取り組み

学内では、教職課程委員会が教職課程の運営ならびに教職指導の内容について討議し、教員養成教育の質向上に取り組んでいる。学科内では、各学年の教職課程履修生に対して、学科の教職課程担当教員ならびに担任が個別に教職カルテに基づいて履修指導を実施している。さらに、教職課程担当教員が4年次の教育実習では実習校に出向いて、また教職実践演習では演習担当教員と協力して、グループワークにて指導案作りおよび模擬授業を通じて、質の向上を図っている。
